

# 福祉環境委員会記録

令和2年11月5日(木)  
09時57分～11時17分  
第4委員会室

【委員】柳楽委員長、村武副委員長

沖田委員、小川委員、岡本委員、佐々木委員、田畑委員、澁谷委員

【議長・委員外議員】西川議員

【福祉環境委員会 所管管理職】

〔健康福祉部〕猪木迫健康福祉部長(教育部参事)、藤井地域福祉課長、

龍河子育て支援課長(教育総務課副参事)

〔市民生活部〕斗光市民生活部長、土谷資産税課長

〔上下水道部〕宇津上下水道部長、有福管理課長、大上下水道課長

【事務局】中谷書記

---

## 議題

### 1 執行部報告事項

(1) 基準地価調査の結果等について

【資産税課】

(2) 上古市配水池の処分について

【管理課】

(3) 令和元年度末 汚水処理人口普及率

【下水道課】

(4) 病児病後児保育事業に係る最終報告

【子育て支援課】

(5) その他

### 2 その他

【議事の経過】

( 開 議 09 時 57 分 )

柳楽委員長

ただいまから福祉環境委員会を開会する。ただいま出席委員は8名で定足数に達している。本日の委員会の執行部出席者は議題に係りのある管理職のみとなっている。また、部屋も小さいことから報告される課長は入れ替わりで説明されることをご了承いただきたい。なお、資料については事前にタブレットに配信しており、執行部報告事項については補足説明のみとしている点も、ご理解をお願いする。質疑・答弁については簡潔明瞭をお願いする。ではレジュメに沿って進める。

1. 執行部報告事項

(1) 基準地価調査の結果等について

柳楽委員長

執行部から補足説明はあるか。

資産税課長

( 以下、資料をもとに説明 )

柳楽委員長

委員から質疑はあるか。

岡本委員

基準地として何点か商業地、住宅地が示されているが、全体の基準地は例えば地区ごとに、浜田市内で何地点くらいあるのか。

資産税課長

評価で使う標準宅地は364地点ある。

岡本委員

それはもともと国や県から示されたのではなく、浜田市が住宅地や計画を見込んでやっているのか。

資産税課長

はい。

岡本委員

旧那賀郡についてはどういう状況か。

資産税課長

標準地は状況が似ている地点にあるように示しているものである。旧那賀郡で言うと、状況が似ているところを一区画として囲い、その中で、住宅地になるが基準地を決め、土地ごとの形状の違いはまた個別に評価していくことになっている。

岡本委員

市内は今、いろいろな土地問題から家屋を残したほうがよいのか、それとも解体して空地にして駐車場にとか、状況が変わってきている。不動産鑑定士が数年に一度調査するとの話だが、建物の評価や、建物を解体した更地、おのおの条件が変わることで価格も変わると思うが、市もしくは不動産鑑定士はどのような基準を持っているのか。

資産税課長

今は解体しないと土地が売れない。そういうことから基準地が少し変わっているのだろうと思う。考え方は示されているのか。

例えば廃屋が建っているとすると鑑定的には下がると思うが、土地自体は建物があろうがなかろうが、土地としての価値、価格は変わらない。鑑定価格は、土地を新たに買われた方が既存建物を解体しなければならぬので考慮されると思うが、土地だけで考えると建物の有無は関係ない。

岡本委員

要は土地だけで判定していて、建物は関係ないということと理解

した。

もう1点、レッドゾーンやイエローゾーンはその後変化しているかを含め、鑑定についてどうか。

資産税課長

資産税課としての評価基準は、0.7、0.8、0.9と3段階で評価しているが、それ以降、変化はない。

澁谷委員

土地の価格は需要と供給で決まるという大原則からすると、浜田市の経済規模の縮小度合いや、人口減少率よりも土地価格の下げ幅が少ない。3年に1度の評価なら、本来なら5%くらい評価額が下がってもおかしくないように思うが、それほど変わらないのはどういう分析をしているか。

資産税課長

人口減少と、空き家が大変増えている状況であることは承知している。土地価格は、不動産鑑定士と毎年5、6回の協議をしている中で、以前澁谷委員が言われた商店街の関係等、いろいろと資産税課としての意見を鑑定士に話しているのだが、鑑定士はバランスを見られるところがあり、これ以上は下げられないといった話になる。

例で言うと3番の中にある、熱田町周辺の石原団地内は2.8%下がっている。小福井団地、汐入団地があり浜田商業高等学校をまたいで石原団地という位置関係になっている。鑑定士が鑑定する上で、コンビニエンスストアや駅からの距離等、さまざまな要素があって石原団地が少し高めだったのだが、一般的な考え方からして何が違うのかというところがある。その辺も話をしたところで、これは小福井、汐入に価格的に近づいたということで2.8%、平米単価で約580円。

いろいろな協議の中で、澁谷委員が言われているような疑問は我々も鑑定士に話しているのでご理解いただきたい。

澁谷委員

今の答弁でいくと、不動産鑑定士が評価を下げないという印象なのだが、それは本当なのかと思う。浜田市の場合は固定資産税が税収の半分以上を占めている以上、そのために浜田市は最高税率にしているのだろう。メインの固定資産税を失うと自主財源に影響するからだと思う。それは不動産鑑定士が価格を下げないのではなく、これ以上は浜田市の経営ができないからと線引きしているのではないのか。

資産税課長

そういうことは全くない。澁谷委員が言われるように下げられるところは下げたほうがよいと思っている。とはいえ、下げること個人資産が失われるわけだから、下げ過ぎてもいけない。バランスを考えながらやっている。

澁谷委員

個人の資産を担保にして借入をするような事業者ならそうだが、一般人は資産があっても固定資産税が高くなるだけであって、どうかなと感じる。資産価値を把握するよりも税金が安くなるほうが、今のように年金も可処分所得もどんどん減ってくる状況の中では喜ばれる方が多いのでは。商店街を見ても商売が成り立っているのかという状況である。そういうことに対して、固定資産税に対する浜

資産税課長

田市の評価の考え方が、市民生活の苦しさに影響してくるのではないかと思います。いかがでしょうか。

個人の、例えば売却予定がない方からすると、安いにこしたことはない。現況で土地を見るので、宅地であったところが雑草だらけで山と変わらない状況になると、原野といったら山並みに落とすのだが、落とすところ、きれいにすれば宅地にしてほしいと資産税課に言われる事業者もいる。特に事業者は、それを担保に借り入れされている場合があるから。個人にすれば安いにこしたことはない、事業者からするとそこそこの値段がなくては困るということで、難しいところはあるのだが、我々は公平に見て、価格も考えながら不動産鑑定士と協議しながら決めていくので、その辺はご了承いただきたい。決して県内と比べて浜田市が飛びぬけて高いわけではないと思う。浜田は賃貸的な不動産は高いと言われているが、土地価格はそれほど高いとは思っていない。

柳楽委員長

そのほかにあるか。

( 「なし」という声あり )

## (2) 上古市配水池の処分について

柳楽委員長  
管理課長

執行部から補足説明はあるか。

( 以下、資料をもとに説明 )

柳楽委員長  
小川委員

委員から質疑はあるか。

結局、国土交通省が三隅・益田道路を作るためにということで、国土交通省の費用負担ということと、特別損失で計上するという、お金の流れがわかりにくいので、説明だけではないか。

管理課長

本来なら移転補償をいただき、更地にして国土交通省へ土地を売却するのが通常の流れだが、先ほど言ったように物理的にこちらで解体するのが難しいため、解体については国土交通省の費用で施工していただくことになる。ただ、帳簿上の話になるが、固定資産として水道事業会計でこの施設が上がっており、その残価が約 3600 万円ある。この 3600 万円については、現金がということではなく、帳簿上の資産価値をゼロに落とすことになる。

最後に土地については、土地自体を国土交通省へ売却するので、約 220 万円のお金を国土交通省からいただく。併せて、配水池施設と同様に、5 万 5 千円の帳簿上の価値があるので、こちらも損失として資産をなくすという流れになる。

小川委員  
岡本委員

理解した。

減価償却の考え方を少しお尋ねしたい。企業だと、均等にしたり、経営状態によってずらしたりするのだが、この施設の償却也年数によつての均等割をしていたのか。

管理課長

償却方法について、水道事業では定額法を採っている。下 2 つが既に償却期間が過ぎているが、取得価格の 5% は残存価格として、耐用年数が過ぎても帳簿上は残している。残り 95% を耐用年数で割

柳楽委員長 | り、均等に償却している。  
ほかにあるか。  
( 「なし」という声あり )

**(3) 令和元年度末 汚水処理人口普及率**

柳楽委員長 | 執行部から補足説明はあるか。  
下水道課長 | 令和3年度末の全国普及率について示してなかったので補足する。  
全国普及率の平均が91.7%。昨年度より0.3ポイントアップとなっている。県内状況については資料のとおり。

柳楽委員長 | 委員から質疑はあるか。  
澁谷委員 | 石見地方の4市を比べると同じようなレベルだが、この4市は全国約1800の地方自治体の中で最低である。今、47.8%から48.1%に増えたと言われたがわずかである。島根県の平均に届くまであと何百年かかるのか。そのためにはやはり合併浄化槽の補助金率を加味してキャンペーンを打って、これから10年間は一気に80%まで持っていくとか、そのときには駅前のこれからの下水道も加味して80%に届くためにはこのくらいずつ、毎年、合併浄化槽を増やさなければならないと。それで予算要求で来年度は補助金額も増やして、現在100件くらいやっているのを500件ずつにするとか、何かしないと。毎年スズメの涙程度に増えたのを見て、少し進歩したと納得しろということか。

下水道課長 | 本当にわずかな伸び率しかない。今年度、合併浄化槽の補助拡充もし、今年は特に消費税増税後だったので申請件数等も減るかとは思っていたが、昨年度の同時期に比べてほぼ変わらない件数になっている。そういった効果も少しはあったのかと思っている。合併浄化槽のさらなる補助拡充も考えないといけないとは思っているのだが、すぐの具体策がなく大変申し訳ない。研究しながら普及率を増加させていきたい。

田畑委員 | あと、市街地の整備も令和8年度に供用開始を目指しているのもので、その時点にはさらに普及率が上がってくると考えているので、そういった方向でやっていきたい。

田畑委員 | 合併浄化槽の槽の大きさによる補助金額の問題もあるかもしれないが、1年で0.3%の伸びを喜んでるレベルでは話にならない。合併浄化槽の補助率を上げることが全体のバランスから考えたときにどうなのかということもあると思う。極端に上げると、今までの人との問題があるろうが、ある程度浜田市の下水道整備事業としての、合併浄化槽設置に伴う補助事業をもっとアピールするとか。石見の中核都市が50%も達してないようなことでは。補助率を上げればよいというものでもないが、バランスを考えた上でよく検討していただきたい。

柳楽委員長 | そのほかにあるか。  
( 「なし」という声あり )

(4) 病児病後児保育事業に係る最終報告

柳楽委員長	執行部から補足説明はあるか。
子育て支援課長	( 以下、資料をもとに説明 )
柳楽委員長	委員から質疑はあるか。
澁谷委員	こういう結論に至ったのは大変結構であるが、もっと早く対応できたのではという思いが正直する。今後の駅裏の施設に向けては万全の準備をして、市民が喜ばれる形になるよう期待している。このようなことが二度とないよう、素早く対応していただき、市民の子育て支援の充実に対応していただきたい。
柳楽委員長	ほかにないか。 ( 「なし」という声あり )

(5) その他

柳楽委員長	執行部から公立幼稚園の今後のあり方について報告をお願いします。
教育総務課副参事	( 以下、資料をもとに説明 )
柳楽委員長	委員から質疑はあるか。
田畑委員	保護者に対する説明会は終わったのか。
教育総務課副参事	11月3日に開催した。
田畑委員	保護者は存続を希望するのだろうか、何か特別な意見はあったか。
教育総務課副参事	主に石見幼稚園に通う保護者からは、通園の負担の話があった。ほかに、園外活動や各園の特色やよさを引き継いでほしいということ。遊具の設置や、預かり保育や給食サービスの前倒しでの導入を望む声。園児を増やすための対策はそういったものから必要ではないかというご意見。園のPRが足りないのではないかという指摘もあった。また、新しい園の建設を望む声もあった。主にはこういったものである。
田畑委員	PRももちろんそうなのだが、遊具を増やすなどはそう難しくはないと思うが、1か所に統合するとなると園児の輸送、バスはどうするのかとか、具体的なものが決まっているのか。
教育総務課副参事	今後予定している保育サービスについての、なお書きのところにあるのだが、統合によって通園が困難となる在園児への対応については、何らかの配慮をしなければならないと考えているが、具体的な方法や運行についてはこれから協議していく。
田畑委員	令和5年度で4園を統合することになっているのだけれど、時間があまりないので、次世代の子どものことなので用意周到に考えて、保護者にあまり負担にならないように。長浜幼稚園に通園するとなるとバスも1、2台必要だろうし、早く市民に決まったことは伝達しないとまずいのでは。5年はすぐである。
教育総務課副参事	おっしゃったご意見は、これから入園を考えておられる保護者からも出ている。その負担については承知しているが、実際の運用をどうするかになると予算的なこともある。園のPR等はホームページ

岡本委員

ジの情報をより充実させるとか、可能な範囲で今年度に遊具を設置するとか、まず今できるところから取り組みたい。

私は原井幼稚園が石見と統合するところから陳情を受けたりしてかかわってきた。今は園児数が相当減っている中、また保護者の環境としてどうしても保育園へ行くことも十分理解している。

転勤族の方が浜田を見たときに、石見小学校校区は何らかの形で求められている人が多いと聞いている。そこがなくなることに對して、どのように受け止められるのだろうかと思う。

なお書きで、通園が困難となる在園児に云々とあるが、こういうところをよそにない手厚いものがあるのだと示していかないと、今まであったものを1つにまとめるので転勤族の方に来てくださいと言っても魅力がない。特色あるものをアピールしないといけないと思うがいかがか。

教育総務課副参事

石見幼稚園に在園されている保護者からもそういった声を伺っている。新たな役割を3ページに載せているが、今は県にある幼児教育センターの役割を、令和4年度からは市町村へ継承する方向性が出された。それを公立幼稚園が担っていくことが大きな役割と捉えている。

それから特別な配慮を必要とする幼児が増加傾向にあり、そういった子どもへの教育を充実させたい思いを強く持っており、公立幼稚園が中心となり、しっかり研究して保育所や認定こども園、市内全ての幼児教育施設の底上げを図り、全体のレベルアップを図っていききたい。それが浜田市の公立幼稚園の特色になっていけばよいと考えている。

岡本委員

他の委員会でも、また同僚議員の中でも、このことについては問題提起、いろいろな形で質問したいと聞いている。ファジーなところではなく、本当に要望されるもの、魅力あるものを出して答弁してほしい。お願いしておく。

佐々木委員

3日の説明会を傍聴させてもらった。若い保護者が質問を事前に準備されて、一生懸命訴えるごとく質問された光景が非常に印象深く残っている。質問された保護者も大変多く、次々手を挙げて述べておられ、関心の高さというレベルではなく自分の子どものために戦っておられるような感覚すら受けた。

あのような意見が出される中、冒頭に各園からも意見を聞いてこの計画をつくったという話があった。説明会の保護者の声を聞くと、とてもその意見が反映されていることではないと感じたが、意見を聞いてつくられたという感覚なのか。

教育総務課副参事

統合の話は随分前からあり、私が4月に拝命するまでも、園の先生の話は何度も聞きながら原案をつくった。その原案はもっと大きなものだったが、その中から選択した形でこれをつくっている。園の先生方がおられての事業なので、今後こういったサービスを導入していくかも、運営に直結するところなので、今後も一緒に協議

佐々木委員

していかないといけないと思っている。

この計画が案と言いながら、もうほぼ決定で、着々と準備を進めていくのか、それとも多くの保護者が言われたような、もう少し存続できるようなことも含めて多少流動的な検討になるのか、考え方を聞きたい。

教育総務課副参事

統合は令和5年4月1日を予定しているが、これを先に延ばすことは考えていない。というのが、施設がいずれも老朽化しており、かなり修繕する見込みをしている。今後最も多く修繕費用がかかるのは石見幼稚園で、それ以降持たせることができないということもあり、園舎はどこが一番望ましいかを検討した結果、長浜幼稚園の園舎が最も適切であると選択した。これ以上延ばすことはできないと考える。

澁谷委員

幼稚園教育というか、幼稚園は完全に曲がり角に来ている。全国の自治体が、市立保育園は民営化するが、幼稚園は公立という首長が全国的に結構いらっしゃった。

ただ、今は3歳以上の保育料が無料になったということで、幼稚園のアドバンテージがなくなってくるので、今の文部科学省の方針からいくと、幼稚園は必ず縮小・廃止の方向に行かざるを得ない。そのためには文部科学省がもう少しきちんとした幼児教育に対する方針を打ち出さない限りは、一介の地方自治体ができる限度を超えているのだろう。縮小されていくことは、流れ的には仕方ないのだろう。認定こども園がどんどん広がってきたり、厚生労働省の施策のほうが現状の子育て世代に対してマッチしている。どうしてもこういう結果にならざるを得ないと思う。

ただ浜田市は幼児教育に対してどういう考え方をもって今後進めていくかを明確に打ち出していないと、市民も安心できないのでは。必ず現状から変更すると、今おられる方は必ず反対されるし。それに対してきちんとした形のものを提示するのが地方自治体の責任ではないか。だから今の案では、流れとしてはわかるが、保護者を説得するまでのものになっていない感じがする。浜田市の幼児教育方針をきちんと打ち出すべきだと思うのだが、部長はどういう考えか。

教育部参事

委員が言われるように今の出生率等から見ても、子どもの人数はどうしても減少傾向にある。また、子育て世代の両親共働きも増えているし、また今までは保護者が働いていても、2時、3時で公立幼稚園が終わったらそこから祖父母が見てくれるパターンもたくさんあったようだが、今は60代70代まで働ける時代になっている。3歳児以上は無償化にもなったため、公立幼稚園を選択していただくことが難しくなっているのが現状で、それが園児数に出ていると思っている。

ただ、全部なくしてしまえばという意見も行革の中ではあったと思うが、そうではなく1つは残して、今は保育園も幼児教育の一員

なので、その方々も含めて一緒に浜田市の幼児教育を底上げしていこうという、施設としての役割も残したい。さらに教育の充実という意味で、特別支援教室を保育園でもやってもらっているが、加えて、そこまでではないが少し困難な子どもも増えている現状があるので、通級で指導教室を設置し、保育園や認定こども園に通っておられる方も通ってきていただきたい。今回は公立幼稚園を1園残すのが妥当だと行革にも諮り、この案を提出させていただいている。長浜幼稚園に統合するのではなく、統合して1つ浜田の幼稚園をつくる。本来は新しい園舎を建てて統合幼稚園としたいところだが、子どもの人数など園舎をどのくらいの規模にするかは、今無償化になったところで現状減ったが、このまま維持できるのか状況を見極めながら、当面の間、長浜幼稚園の園舎を使うと説明させていただいている。

先ほど副参事も説明したように、石見幼稚園の園舎はこの先5、6年使うとなると修繕費が二、三千万円かかることが明らかになってくるので、長浜幼稚園舎を使う。今の在園児が卒園されてから統合幼稚園を1つつくる。

通園児が大変になるから通園バスという話もあったが、公立幼稚園がどうしても大事だというのは、先日の保護者説明会でもとても熱い思いを聞いた。公立幼稚園に、預かり保育も給食もなくとも、それだけの子どもを預けておられるのは、やはり公立幼稚園を要望されている方が多いのだと感じたので、今後も熱意のある保護者の方に公立幼稚園へ入ってもらうためにも1つは残さないといけないと確信した。さらに言うと、実質的には公立幼稚園に入れたくても入れられない方もおられるので、保育園や認定こども園も同じようなレベルアップをしていく施設でないといけないと思っている。それについては、浜田には私立幼稚園が1つあるので、各自治区を通園バスが回って園児を集めるようなサービスは考えていない。

今後、3年度、4年度に石見幼稚園を選んで入ってこられる子どもが卒園するまでに、長浜幼稚園の園舎に送迎が難しい場合に限り、石見幼稚園のそばまで迎えに行き通園を補助することを考えている。それがなお書きの部分の趣旨だと思っていただきたい。私立の幼稚園や保育園のように市内を全部回るころまでは考えていない。通級は統合後にすぐ始めたいと思っているが、給食については、給食センターとの協議が必要なのですぐとはならない。今は試食会だが、給食となると施設の整備等も必要なので考えていけないといけない。預かり保育もどのようなものをするのか検討している段階である。来年4月から実施とは考えてない。今後募集する際に、それができるようになってからとなる。

田畑委員

今4つある幼稚園を1つにする時に、仮に長浜にした場合、現在石見幼稚園に通っている方に、バスは走らせないが通園補助は考えてもよいという言い方のように聞こえたのだがどうか。

教育部参事	<p>今回園児募集する際には、統合幼稚園になること、さらに令和5年からは長浜幼稚園の園舎を使った統合幼稚園になると言っているので、それを選択されるということは、どのように卒園まで通うかは保護者の方も考えられると思うが、いろいろな事情で連れていけない方もおられるので、その時にはスクールバスを流用できないか等を検討中である。全員を集めて回る形の通園バスは考えてない。</p>
澁谷委員	<p>私立幼稚園と公立幼稚園のすみ分けはどう考えておられるか。相談や打ち合わせなど。</p>
教育部参事	<p>相談はまだしていない。先ほども言ったように私立幼稚園を上回るようなサービスは、なかなか公立幼稚園は現段階ではできない。完全給食も給食センターとの協議でまだできないので、私立幼稚園が週3回給食をしておられるが、それも今すぐできるかどうか。月に2回やっている試食会が4回になるのか等、いろいろなレベルアップは考えている。</p>
澁谷委員	<p>1つの幼稚園に集約するなら、それ以後公立幼稚園は浜田市には必要であると考えたら、明確なアドバンテージや特徴がないまま縮小すれば自然淘汰されていくとしか思えない。</p> <p>というのも総合振興計画で浜田市は出生数が5年先まで400人としているが、現状は350人を割り、来年は恐らく300人を割るだろう。今後の幼稚園の必要性和経営を考えた場合、当初の計画が狂ってしまった。幼稚園を1園にするのだが、アドバンテージがどのように強化していくということが、今の話だと給食さえ週3日もできないのなら、何をもって浜田市の幼稚園の存在理由を検討しておられるのか、説得力がないように思える。庁議等ではどのような議論になっているのか。</p>
教育総務課副参事	<p>3ページにある「市立幼稚園の役割」に述べさせてもらっている。幼児教育センターとしての機能と、特別な配慮を必要とする幼児のための教育の充実が、これから果たしていかなければいけない役割だと考えている。</p>
澁谷委員	<p>ということは、保育園の特別な配慮が必要な子どもも、浜田市の公立幼稚園が全て受け入れていくという考え方か。それなら価値がある。そこまできちんとしたことになっているのか。</p>
教育総務課副参事	<p>今、保育所にも特別な配慮を必要とする子どもがおられるが、そういう子どもを集めるところまでは考えていない。通級指導教室を新たに設置しようと思っているのだが、そこに統合幼稚園の中の特別教室に属さない子どもや、統合幼稚園以外の認定こども園・保育所の特別な配慮を必要とする子どもも通ってきていただき個別指導ができる、そういった通級指導教室を考えている。集約するところまでは考えておらず、そういった子どもをケアするための情報を伝えたり支援する役割を担っていきたい。</p>
澁谷委員	<p>まだ明確ではないと。</p>
教育総務課副参事	<p>今の考えではそういう方針でいる。</p>

沖田委員	長浜幼稚園の園舎を利用するメリットの最後に、「ふるさと郷育の特色の1つでもある海洋教育を充実させることができる」とあるが、どのように充実させるのか。
教育総務課副参事	長浜幼稚園はすぐ近くに海があり、何度も遊びに行かれたりいろいろな体験をされている。環境的に石見幼稚園や美川幼稚園よりも数多く体験できると考え、充実させることができるという表現にした。今の石見幼稚園も美川幼稚園も、地域に根差した特色ある、魅力ある行事や教育をされているので、そういったものを引き継いでほしいという保護者の要望も聞いている。できる限りそういったものを新たな園でも取り込みたい。保護者説明会でもあったが、今日は石見の日、今日は美川の日のようなことをやってほしいと。できる限りそういったものを取り込んで、伝統も踏まえたいうえで新たな園になるようにしたい。
沖田委員	預かり保育や給食等新たに実施するサービスもさまざまあるが、公立幼稚園の魅力はそれではなく、こういうことの充実だと思っている。いまいまだ具体性がないようにも感じるし、長浜幼稚園の延長ではなく、もう少し特色のあるものにしていくべきだと思うが、いかがか。
教育総務課副参事	サービスの部分は民間と同様のレベルまではなかなかできないと思っているが、教育部分で魅力があると保護者に思っただけのように。具体的なものは1つ1つ言えないが、各園でされている特色のあるもの、地域とのつながりがあるもの、自然体験、それぞれよいことをされているので可能な限りそれを取り込んでいきたいということで、幼稚園の先生方とこれから詰めていくところである。
岡本委員	児童養護施設の子どもを美川幼稚園で受け入れるということがあったが、今の4園が1園になったときもそれが可能な状態になるのか。
教育総務課副参事	それは現在も受け入れをしているが、新しい統合園でも当然引き継いでその役割は担っていかねばならないと思っている。
村武副委員長	かなり具体的などころまで考えておられるようだが、ここに至るまでどのように検討してこられたのか。例えば幼稚園の先生方と協議をして検討されたのか。幼児教育の専門的知識のある先生方、例えば島根県立大学松江キャンパスの先生方の意見を聞かれたのか。どのように検討されたのか伺う。
教育総務課副参事	私が把握している中では、主に内部協議を重ねてきて、また教育委員にもかなりご意見をいただいた。協議会という形で4回くらい重ねさせていただき、具体的なご意見をいただいた。あとは市役所内の関係課で集まって意見をいただいた。また行革本部会議にかけて協議を重ねてきた。
	県大の先生方の意見が入っているかどうかまでは私は把握していないが、今までの実態を調査して現在の問題点を洗い出し、今後どういうものにしたらよいかは、今の流れで決まると認識し

村武副委員長

ている。

この浜田市においてどのように魅力ある幼児教育をしていくかは大変重要である。さらにこの幼児期、これから成長していく上でとても大切な時期だと思う。専門知識を持った先生方、島根県立大学松江キャンパスは少し遠いかもしれないが、県内にあるので先生のご意見を聞かれるとか、保護者の意見をしっかり聞いていただきたい。

小川委員

私もこれから幼稚園に入りたいという保護者から、いろいろな意見を聞いている。本当に関心が高い。ここに入りたいと思っていただけのような魅力ある幼稚園にしていきたい。

資料4ページの5番目の(1)、(2)、(3)の部分が、保育園と幼稚園の違いで、子どもを幼稚園でなく保育園に預けるために、幼稚園の園児が少なくなり存続が難しくなっている。今まで幼稚園でもこういうサービスがあれば何とか幼稚園に通わせたいという保護者もおられたと思う。給食は条件を整えればできるという話もあったが、この(1)から(3)までを実施するにあたっては、法的な規制があつてできないのか、条件を整えば今までもできたのか。

教育総務課副参事

法的な問題でできなかったとは思っていない。PTA連合から毎年要望事項を受けているが、その中でも預かり保育や給食は毎年要望されていた。ただ実際にそれを実現するところまでの具体的な検討ができていなかったのは事実だと思う。それは法的な規制があるわけではなく、なかなか実現に結びつかなかった。

小川委員

こういったサービスがなかったから他園を選ばれたという方もいるし、なくても公立を選ばれた保護者もいる。ただ、要望が多いことは承知しているので、これからは導入に向けて考えている。

公立の幼稚園を1園は守っていくという強い意思も感じるが、県で平成30年4月に幼児教育センターを開設してから数年後にその役割を渡すようなことになっているが、それは県でなかなかうまくいかなかったから、身近な自治体でということと役割を市に継承するのか、県では実施が難しかったと判断されたからか。

教育総務課副参事

確かに平成30年4月に開設されたばかりではあるが、4年度以降に市町村へ継承するという方向性は、今年の夏に担当者連絡会議の中で示されて、我々もそれを知った。何か問題があったかというところまでは私も把握していないが、今年度は全ての幼児教育施設にこの幼児教育センターの職員に訪問指導していただき、市職員も全て同行したが、幼児教育施設、小学校の実情は市町村のほうがしっかり把握しているということで、役割を継承していきたいという国の方針に沿った流れになっている。

小川委員

理解した。

柳楽委員長

そのほかにあるか。

( 「なし」という声あり )

執行部からそのほかに何かあるか。

地域福祉課長  
柳楽委員長

( 「なし」という声あり )

では執行部からの報告事項4件について、11月16日に開催される全員協議会へ提出し説明すべきものを決定したい。まず執行部の意向を確認したい。

(4) 病児病後児保育事業に係る最終報告を提出したいと思う。執行部の意向のとおりでよいか。

( 「はい」という声あり )

ではそのようにお願いします。執行部の皆は退席いただいて構わない。

《 執行部退席 》

## 2. その他

柳楽委員長

そのほか、委員から何かあるか。

( 「なし」という声あり )

柳楽委員長

以上で福祉環境委員会を終了する。

( 閉 議 11 時 17 分 )

浜田市議会委員会条例第65条の規定により、ここに委員会記録を作成する。

福祉環境委員長 柳楽 真智子 ㊞